

佐太神社崇敬会へご入会ください

導きの神佐太大神(猿田毘古大神)をはじめ十二柱の神々、この御社に集う八百万の神々からの廣大無辺なる御神徳を授かりましょう

佐太神社崇敬会は平時における佐太神社を奉護して、御神徳を宣揚し、年中数度の古伝の祭事を振舞って、神社の隆昌を願ひ、御本殿三社をはじめ数々の文化財、社宝、美術品等を末永く後世に伝えると共にこれを活用して文化の創造・発展に役立て、大神様の廣大無辺なる御神徳のもと、人々の平安と繁栄を願うものであります。

佐太大神をはじめ十二柱の神々、この御社に集う八百万の神々からの幸福、ご縁がいただかれまますようご入会のご案内を申し上げます。尚、崇敬会の活動に対する寄付金も受付けております。既にご入会の方もご親戚、ご友人など多くの方々のご神縁を結んでいただきたくご紹介いたしますようお願い申し上げます。

年会費

- ◆ 準会員 三千元
- ◆ 会員 五千元
- ◆ 正会員 壹万円
- ◆ 法人会員 参万円

待遇

- ◆ 参拝時に御垣根にて拝礼が出来ます
- ◆ 祭事催しのご案内をいたします
- ◆ 崇敬者大祭にご招待いたします
- ◆ 毎年神札を授与いたします
- ◆ 会員章を授与いたします

ご入会方法は佐太神社事務所へお問い合わせください。ホームページからもお申し込みいただけます。



崇敬会ご入会

宝石系御守(桐箱入り)

五斗以上ご寄付頂いた方に授与致します



彩絵検扇 ルビー系使用



龍胆瑞花鳥蝶文扇箱
ダイヤモンド系使用



出典元(復元品)
島根県立古代出雲歴史博物館

御塩(藻塩)

※社頭にて絶賛頒布中!



初穂料 500円也

藻塩はお客様の代表的なものであります。当社の主祭神佐太大神(猿田彦大神)は導きの神、福の神など多くの御神名をお持ちの中に「夕焼の神」とも申し上げています。古傳祭のお誂れには海水と海藻(ホンダワラ)を用います。塩は諸々の厄災を祓い清めます。お分かちする藻塩は、生命の根源であります水と火と海藻にて精製しており、人智の及ばない諸々の災厄を祓い清めてより良い未来を開きましよう。

神在の社

佐太神社崇敬会だより
かみありのやしろ

佐太神社崇敬会
令和6年10月発行
第八号
特集:「宇多紀社 正遷座祭 斎行」

神在の社

第八号

令和六年十月発行
特集「奉祝佐太神社正中殿掛社宇多紀社正遷座祭斎行」

発行 佐太神社崇敬会
島根県松江府鹿島町佐陀宮内七三

写真撮影 阿礼 / デザイン 編集 坂本洋子



佐太神社崇敬会

佐太神社事務所
〒690-0331 島根県松江市鹿島町佐陀宮内 73
TEL・FAX (0852) 82-0668
✉ info@sadajinja.jp
http://sadajinja.jp/

ご挨拶

佐太神社崇敬会 会長 宇藤 志郎



謹啓

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素より佐太神社および佐太神社崇敬会の儀につきましては、毎々御崇敬を賜り誠に感謝申し上げますとともに、有難く厚く御礼申し上げます。

皇室におかせられましては、天皇皇后両陛下がイギリスへご訪問され、両国の友好親善関係の構築を図られる、お二人の微笑ましいお姿を拝見し、心温まる気持ちを得ることができました。

本宗と仰ぐ神宮におかれましては、伊勢の地が賑わいを取り戻しつつある中、新年を迎え、日々の祭儀も滞りなく斎行され、次期遷宮に向かっての準備も進められている由、御同慶の至りと存じます。

また、本年一月一日に発生した令和六年能登半島地震により犠牲となられた方々に対し謹んで追悼の意を表すとともに、被災された皆様方に衷心より御見舞い申し上げます、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症は感染法上の位置づけが五類に引き下げられ、今日平常な暮らしへの回復が進みつつあります。此の今こそ、祭祀の継続、再興を目指して取り組み、今一度崇敬崇祖の精神を根底に据え、代々受け継いできた「日本人の心」を見つめなおす時だと考えます。

佐太神社に於きましても、平成二十四年より進めてまいりました修復工事も社務所増改築を最後に、滞りなく終えることができました。これも偏に崇敬の念厚い皆様方のおかげと感謝申し上げます。しかしながら、まだまだ目の届かないところもあり、少しづつではありますが、修繕していかなければならず、皆様方のお力をお借りしなければなりません。

終わりに、引き続き佐太神社、また佐太神社崇敬会の事業推進に、鋭意進めてまいりますので、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

敬白

ご挨拶

佐太神社 宮司 朝山 哲



先ずは、聖寿の万歳と皇室の弥栄、そして氏子崇敬者の皆様にはますますのご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

近年において皆様も当たり前前のことはないと感じておられるのではないのでしょうか。季節の移ろいできえ、四季は普通にめぐってこなくなりました。季節外れの猛暑、更には頻繁に訪れる豪雨など。そして、各地において甚大な被害をもたらす地震や、世界的には戦争もかりです。当たり前前の生活が当たり前ではなくなるかもしれません。我々は、神の恵みを受け、ご先祖様に生かされ、神や人に助けられていることに気づき、またその被害にあつた方々を想い、手を差し伸べ、いまの日常に感謝し、今までの当たり前前に感謝し日々を過ごしたいものです。さて平成二十四年より執り行つてまいりました修復工事も、第二期工事の社務所改築を滞りなく終えることが出来ました。これを持ちまして、平成の大遷宮として計画しておりましたすべての修復事業を修了することになりました。この事業に関わりいただきました皆様には、感謝の気持ちでいっぱいでございます。

また、六月八日には、大阪にお住いの崇敬者であられる澤野様ご夫妻のご協力において、長年の当社における懸案でありました佐太神社撰社宇多紀社の建立、さらには氏子崇敬者の方々のお力を借り遷座祭を滞りなく終えることが出来ました。この宇多紀社は出雲の国風土記（七七三）に見え、下照姫命様を御祭神とする古社であります。近世半ばに佐太神社境内撰社となり、社殿においては、大正末期に傷みも激しくあつたところに大きな台風により倒壊し、そのため下照姫命様には当社正中殿内に仮宮としてお静まりいただいております。そして、そのち百年の時を経て、元の大地にめでたく御遷座していただく事が出来ました。以前にもまして、とても立派な神殿を建立、そして遷座することが出来ました事、ご支援ご協力いただきました皆様には、深く感謝申し上げますとともに心より御礼申し上げます。

今後とも、我々神職職員一同、皆様方の御支援ご協力を胸に刻み、神明奉仕に努めてまいりますので、引き続きご協力のごお願い申し上げます。

『藁蛇と荒神祭』 荒神信仰について

藤純

中村元記念館東洋思想文化研究所研究員 中野 秋鹿



松江市東出雲町揖夜神社境内の藁蛇

荒神信仰について

稲刈りを終えた田んぼが広がる農村風景に、藁を編む人々の掛け声が響く。出雲から伯耆地方の晩秋の風物詩「荒神祭」は、その年に収穫された稲藁で長い竜蛇（藁蛇）を作り、荒神を祀る場所で神事を行い、神木へ藁蛇を巻きつける年中行事である。出雲と伯耆の荒神祭は、国の「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に選択されており、この地方に特徴的な祭りの形を今に伝えている。

私が藁蛇を初めて認識したのは、学生時代に訪れた松江市東出雲町の揖夜神社[＊]であった。鬱蒼とした境内の一角で、神木に巻かれた藁蛇の目がじつとこちらを見据え、周囲の地面には数多の朽ちかけた御幣が突き刺さり、ただならぬ雰囲気を感じたことが印象に残っている。

それから中国地方の各地を廻り、形も大きさも祀られ方も様々な藁蛇や、荒神にまつわる神楽の数々を調査してきたが、知れば知るほど荒神とは、藁蛇とは何であるのか、わからなくなっていく感覚を覚える。



② 4年に1度の3月に行われる鳥取県西伯郡大山町赤松の荒神祭

荒神とは読んで字の如く荒ぶる神であり、丁寧に祀れば大きな神威を顯す一方、祀りを怠れば禍をもたらす存在と考えられている。荒神信仰は東日本も含めた全国に広くみられるが、その多くは竜神としての信仰である。「三宝荒神」とも呼ばれ、火によって清浄をもたらすとして、主に屋内の台所に祀られる。

一方、出雲や伯耆など中国地方では、屋外に祀られる荒神（外荒神）の信仰が非常に盛んである。農業神（作神）、水神、土地の守り神、屋敷神、先祖を神格化した祖霊神、村の境界の守り神、地縁的共同体の守り神、牛馬の守り神、子どもの守り神など、その地域の人々の生活に根差した様々な性格の神々が、荒神の名で呼ばれている。そして時に地荒神、臍の緒荒神、境荒神、牛荒神、総荒神、本山荒神など、その性格に応じた言葉で冠して呼ばれることもある。出雲では荒神が素盞鳴尊と習合した例も多くみられ、近代以降の神仏分離の流れの中でさらにその解釈が広まったと思われる。それに伴い、藁蛇を八岐大蛇と解釈している地域も多く興味深い。

荒神を祀る集団の規模は様々で、一戸だけで屋敷神として祀る例、本家と分家など数戸の血縁的共同体で祀る例、数戸の地縁的共同体で祀る例、荒神講などの民間信仰に基づく相互扶助組織で祀る例、集落の地区単位で祀る例、わずかだが村単位で氏神社として祀る例などがある。そして多様な祀り方に対応するように、祀る場所もまた多様である。個人宅の敷地内、共同体の共有地である小山や塚、氏神社などの境内の一角、村の境界など、至る所に祀られている。例えば出雲市大社町の大土地荒神社[＊]のように村の氏神社として祀られる場合は立派な社殿を有するが、ほとんどの荒神社は社殿を持たず、木や石などの自然物、玉垣や小祠などの簡素な施設に祀られるのが特徴的である。

享保二年（一七一七年）に黒沢長尚が著した出雲国の地誌「雲陽誌」によれば、当時出雲国内の十郡すべてで五千近くもの荒神が祀られている。これは尋常でない数であり、出雲周辺の人々にとっての荒神が、どれほど重要な存在であったかを物語っている。

荒神祭祀の日本史料上の初見は、平安後期の公卿・源俊房による日記『水左記』の承暦四年（一〇八〇年）の記述で、大阪府箕面市にある勝尾寺の住僧が荒神祓を行ったことが記されている。勝尾寺は中世以来、山林修行の行場として知られた天台宗系の古刹である。荒神信仰は遅くとも平安後期に勝尾寺周辺で発祥し、天台・真言の密教系宗派を中心に普及していったとみられ、中世の寺社縁起には、修行を妨げる障礙神であったが、丁寧に祀られることで修行者を守護する善神へと転化する荒神の姿が描かれている。これは荒ぶる鬼神さえも教化・救済する仏法の功德を説くと同時に、崇りの激しさに比例した荒神の神力の強大さを喧伝するものであった。

荒神信仰を全国各地に伝播させたのは、密教系寺院に関係する山伏や陰陽師といった流動性の高い民間宗教者であったと考えられている。そして各村々で受容される過程で、既存の民間信仰の中で様々な性格を有し、様々な名で呼ばれていた神々が、荒神の名のもとに集約されて、現在見られるような複雑かつ多様な荒神信仰が形づくられていったのであろう。

御幣の種類によって形や長さが異なり、神職がそれぞれの形に切った半紙を、男性陣が女竹の先に取り付けていく。こうして作られた御幣のうち、水神幣や塚幣、大幣は地区住民が買って帰って各家の敷地や田畑に立て、四本の境界幣は地区の四方の境界に立てるといふ。公民館の台所では女性陣がお供えの米や団子、御神酒などを準備する。その間に蕨蛇を二か所の荒神社へ運び、神木に巻き付ける。



垣之内地区の荒神祭 上の荒神社 湯立神事

出雲・伯耆の荒神祭

出雲で行われている荒神祭は、冒頭のように蕨蛇を用いるものが有名だが、実際には蕨蛇を用いない荒神祭の方が多い。秋に稲藁で蕨蛇を作り奉納するのは、神に豊作を感謝する収穫祭の要素が強く、主に農村において荒神が農業神として祀られている地域に特有のものとも考えられる。またかつては蕨蛇を用いていたが、負担が大きいためにならなくなった地域も少なくないだろう。そんな中で、現在も蕨蛇を用いた荒神祭を伝承している事例をひとつ紹介したい。

松江市島根町大芦垣之内地区^{＊④}では、毎年十一月に荒神祭が執り行われる。二〇二三年十一月十九日のさわやかな秋晴れの中、垣之内集会所に集まった男性陣が、集会所裏の土間で蕨蛇作りを始める。蕨蛇の胴体となる長い綱を編む作業は四人一組で行い、一人が梯子の上に蕨蛇の頭を固定して、三人が「マイター、マイター」の掛け声に合わせて、蕨をつぎ足しながら三方向から三本の蕨束をねじり捻っていく。垣之内地区では上と下の二か所の荒神社に奉納するため、雌雄二体の蕨蛇を作る。



垣之内地区の荒神祭 下の荒神社

午後二時を過ぎる頃、集落の南の山中にある上の荒神社の神事が始まる。民家の間を抜けて竹藪の中を少し登ると、枯れてなくなった神木の跡地に、雌の蕨蛇がとぐろを巻いた姿で安置されている。入り口の注連縄を掛け替え、蕨蛇に十二本の御幣を立て、米と団子と御神酒を供える。薄暗い竹林の中、蕨蛇と向かい合って座した神職が、厳かに祝詞の奏上や湯立神事を執行し、最後に直会をして終了となる。次は集落内の小高い場所にある、下の荒神社の神事が同様に執り行われる。荒神祭が終わると、蕨蛇はそのまま残され、風雨に



松江市島根町大芦垣之内地区の荒神祭 蕨蛇作り

長さ二十メートル程の蕨蛇ができあがると、一同は一旦解散して昼食をとる。以前はこの間に子ども達が蕨蛇をどこかへ隠してしまい、休憩を終えて戻ってきた大人達がお菓子と引き換えに子ども達から隠し場所を聞き出し、見つかった蕨蛇で綱引きをするという慣例があったが、現在は地区内の子どもが減って難しくなったため、集落からほど近い松江学園へ蕨蛇を運び、学園の子ども達と綱引きをして交流している。

午後からは集会所の中で、御幣を作る作業が始まる。荒神幣、水神幣、塚幣、大幣、境界幣など晒されて朽ちていく。神木には前年の蕨蛇の残骸が残る。この場所で連綿と祭りが続けられてきた年月の重なりを感じさせる。

このような蕨蛇を用いる荒神祭は、出雲では東は安来市から西は出雲市まで、伯耆では大山町以西で広範に行われている。伯耆の荒神祭も出雲と概ね同じだが、その年の収穫に対する感謝を荒神に申し上げることから、「申し上げ」と呼ばれている。また出雲では十一月に行う地域が多いが、伯耆では十二月に行う地域が多いなどの傾向がみられる。鳥取県の無形民俗文化財に指定されている南部町馬佐良地区^{＊⑤}の申し上げは、神事の最後に荒神を祀る玉垣の中に埋まっている蕨の蓋を開けて、前年に入れた甘酒の減り具合を見て来年の豊作を占うという、中国地方の荒神祭祀の古態を残すことで知られている。

出雲・伯耆の荒神祭はほとんどが神職による神道式で行われているが、出雲では仏教式の荒神祭もごくわずかにみられる。出雲市唐川町^{＊⑥}では天台宗の古刹である鸕淵寺の住職によって祭祀が執り行われており、神道式と共通する部分も多いが、

実施時期が六月で、藁蛇に銭幣と呼ばれる特殊な御幣を刺すなどの特徴がみられる。他にも同じく天台宗の古刹である安来市清水町*の清水寺周辺でも仏教式の荒神祭が行われており、松江市鹿島町古浦の魔納荒神*でも、近年まで真言宗の古刹・成相寺の住職による祈祷が行われていた。前述のとおり荒神信仰を民間に広めたのは密教系宗派に関わる民間宗教者と考えられ、近世以前は山伏などが神仏習合した荒神祭を担っていたが、明治期の神仏分離により多くの地域が神道式の荒神祭に移行しつつも、仏教式に移行した地域がわずかにあったということであろうか。



安来市清水町の仏教式の荒神祭



比婆荒神神楽社（広島県庄原市東城町）の旗田彦舞

備中・備後の荒神神楽

出雲・伯耆の荒神祭と並んで中国地方で特徴的なのは、備中・備後で行われている荒神神楽であろう。中国山地の南側の山間部では、中世以来の名と呼ばれる数戸の家で形成される血縁を基本とした共同体ごとに、名の守り神である本山荒神を祀る風習が残っている。本山荒神は、その土地を最初に開発した祖先を神格化したものと言われている。さらにこの本山荒神の下に、水神、山の神、ミサキなど様々な性格の神々が祀られており、

本山荒神を頂点とする小さな神々の集合体の祭祀として、数えて七年・十三年・三十三年などの式年を定めて、大規模な荒神神楽を行うのである。かつて四日三晩に渡り行われた壮大な祭りでは、現在は一晚のみになった地域が多く、各地域でそれぞれ特色はあるものの、その概略を以下に述べたい。

式年の晩秋、かつては稲刈り後の田の中に建てられた神殿で、現在は集会所などの中に設けられた神殿で行われ、巨大な藁蛇が神殿の外に置かれる。神殿上部に設けられた神棚に本山荒神の御霊を迎え、辺りが暗闇に包まれる頃に荒神神楽が始まる。舞の担い手は「〇〇社」と称する神楽団体に属する太夫達で、最初は素面に狩衣姿で「莫摩舞」など七座の神事舞を舞い神殿を清める。ご存知のとおり神楽の最初に「七座」と呼ばれる複数の神事舞を舞う形式は、近世初頭までに佐太神社で確立されたと考えられており、備中・備後の神楽にまで佐太神社の影響が広く及んでいることがわかる。



岡山県新見市哲多町矢戸の蛇神楽（荒神神楽）の託宣

白蓋と呼ばれる天井飾りを激しく揺らす神降しの儀式が行われた後、神職による祭典が執り行われる。その後、鼻高面を着けた猿田彦命が神楽に障りをなす東西南北中央の悪魔を祓うと、国譲り神話に基づく「国譲」、素戔嗚尊の八岐大蛇退治を描く「八重垣」などの神能が何時間もかけて演じられる。深夜の休憩時間になると、参加者達はそれぞれ持ち寄り寄ったごちそうを食べ酒を飲み、賑やかに夜が更けていく。神能が終わると、

木(東)・火(南)・土(中央)・金(西)・水(北)を司る五人の兄弟の争いと仲裁を描く「五行」を舞い、土公神と呼ばれる地の神を鎮める。

そして夜明け前の薄闇の中、最も重要な藁蛇を用いた綱入の儀式が始まる。太夫らに抱えられた藁蛇が神殿の中へ入ろうとすると、神殿の中にいる太夫に制止され、藁蛇の素性や荒神の謂れに関する長い問答の末、ようやく許されて神殿に入った藁蛇は、勢いよく周囲の人々に突進する。そして藁蛇の頭と尾が神殿の柱に斜めにくくりつけられ、続く「綱舞」では二人の太夫が藁蛇に刀や松明を当てる「鱗落とし」をする。やがて一人の太夫が激しく舞いながら神懸かり、御久米と呼ばれる白米を使った託宣が行われる。出雲の荒神祭と同様に、荒神神楽でも藁蛇を用いない地域もある。また藁蛇ではなく一反の白木綿を用いた布舞によって、神懸かり・託宣の儀式を行うこともある。

神殿での神楽が終了するとすでに夜が明けており、本山荒神を元の社へ送るため、氏子達が藁蛇を担いで集落を練り歩き荒神社を目指す。荒神社に着くと神楽の結願を祝う祭典が行われ、藁蛇が小祠や神木に巻き付けられる。



広島県神石高原町亀石の荒神社に巻かれた藁蛇

晩秋の空に響き続ける

文中村元記念館東洋思想文化研究所研究員

中野秋鹿



藁蛇を作る人々の掛け声

おわりに

備中・備後の荒神神楽には、藁蛇を作り神木に巻き付けるなど、出雲・伯耆の荒神祭との共通性が見出せる。現在出雲では式年の荒神神楽はほぼ見られないが、唯一松江市東忌部町*12で、三十三年に一度の式年に、大原神職神楽による荒神神楽が伝承されており、かつてはそれ以外の地域にもあった

可能性がある。また伯耆でも現在式年の荒神神楽は見られないが、江戸時代を通して十三年などの式年に屋外で荒神神楽が行われていたことが「神社改帳」などの記録からわかっていいる。さらに石見地方の江津市桜江町などに伝承される重要無形民俗文化財の「大元神楽」は、「荒神」と「大元神」で神格の呼び名は異なるものの、神楽の目的及び藁蛇を用いた

儀式の構造は、備中・備後の荒神神楽と非常に共通性が高い。このように中国地方の荒神祭祀を俯瞰すると、長い歴史の中で中国山地を隔てた地域間で人々が行き交い、独自性を生み出しつつも影響を与え合い変容しながら発展していったことがわかる。そしてそれが今日まで絶えることなく守り伝えられてきたことは、非常に意義深いことであると実感できる。

過疎化、農業人口の減少と農業の機械化による藁蛇材料の不足、感染症など、荒神祭の伝承を取り巻く近年の状況は非常に厳しいものがある。しかしどうかこれからも、藁蛇を作る人々の掛け声が、晩秋の空に響き続けることを切に願う。



14 鳥取県境港市渡町



15 鳥取県米子市淀江町福岡



16 鳥取県庄原市西城町八鳥



17 鳥取県神石高原町笹尾



18 岡山県新見市土橋



19 広島県福山市新市町金丸



9 鳥取県庄原市東城町



10 岡山県新見市哲多町矢戸



11 広島県神石高原町亀石



12 松江市東忌部町



13 御津神社 (松江市鹿島町御津)



大元神楽 (江津市桜江町江尾)



1 揖夜神社 (松江市東出雲町)



2 鳥取県大山町赤松



3 大土地荒神社 (出雲市大社町)



5 鳥取県南部町馬佐良地区



6 出雲市唐川町



7 安来市清水町

8 魔納荒神 (松江市鹿島町古浦)

4 松江市島根町大声垣之内地区

中国地方各地の荒神祭





令和六年六月八日 十時〜 上棟祭

上棟祭
今後長く新殿に禍(まがごと)なく、
幸あれかしと乞祈(こいのみ)まつる祭儀



令和六年六月八日 十四時〜 新殿祭

新殿祭
無事竣工成就したことを神明に奉謝して喜び祝うと共に
将来社殿の安全堅固ならんことを神明に願う祭



令和五年九月十一日 地鎮祭

地鎮祭
神殿新築の各種土木工事の起工に際し、その敷地の守護神を
祭つて神慮を和め土地の平安堅固ならんことを祈請する

百年の時を経て元の大地に御遷座

当社摂社宇多紀社は出雲國風土記に「宇多貴社」また延
喜式に「宇多紀社」とある古社でありますが大正年間社殿
破損により已む無く佐太神社正中殿に合祀されておりました。

この度澤野脩一様(順子様)ご夫妻の御支援を賜り旧社地に
御社殿を造営する復興事業を計画し鋭意諸準備を進めて
参りましたところ御造営工事も無事完工し令和六年六月八日
には無事正遷座祭を肅行することができました。

当日は十時より上棟祭、十四時より新殿祭、十八時半より
遷座祭を執り行いました。遷座祭はあいにくの雨模様でし
たが、氏子総代・崇敬会役員はじめ関係者の皆様にご参列
いただき恙なくご遷座を執り行いました。

なお、ご支援いただきました澤野脩一様(順子様)、施行者
株式会社石原建築様はじめ工事関係者、門帳を御奉納頂き
ました坂本ご夫妻様、その他ご寄付・ご奉納を頂きました
皆様方に心より御礼申し上げます。

宇多紀社 御利益 心身清浄・美徳成就

ご祭神下照姫命は大国主命の娘で地面に照り映え光り輝く
ほどの美しい女神であると言われ、身も心美しく清らかに
お導きいただけるお力をお持ちです。



宇多紀社【葦守・絵馬 御神札】

初穂料 1,800円也

絵馬の裏面に願いを記し、本殿以下各社を参拝の後、
宇多紀社で願をかけて絵馬中央の花型をくり抜き、
錦袋に花型を納めお守りとしてお持ちいただけます。
御神札はご自宅の神棚に丁寧にまつってください。



特集

佐太神社正中殿攝社

宇多紀社

正遷座祭

齋行

令和六年六月八日 十八時半〜 湯行祭

湯行祭 湯立神事を執り行い、新殿以下祭器具、神饌、祭主、祭員、参列者などすべてを祓い清める



假殿祭 ご祭神にこれより新殿に動座する旨を奉上

令和六年六月八日 十八時半〜 假殿祭(正中殿)



出御・環幸・入御



出御・環幸・入御
宮司が御(ぎ)まを奉載し神職、参列者が古式に拠り
神幸具などを奉持し正中殿から新殿に環幸する



本殿祭(宇多紀社)

本殿祭
ご祭神に無事ご遷座を執りつた旨を報告し、
今後とも氏子崇敬者が幸多からん事を願い祭儀を行う



令和5年度 佐太神社崇敬会一般会計決算報告書

令和5年度 佐太神社崇敬会事業報告

【歳入】 令和5年4月1日～令和6年3月31日 (単位:円)

項目	決算額	今年度予算額	増減	備考
繰越金	431,489	431,489	0	
会費	2,225,000	1,900,000	325,000	
寄付金	641,000	700,000	▲ 59,000	寄付・広告協賛金等
繰入金	0	0	0	
雑収入	87,006	511	86,495	預金利息等
合計	3,384,495	3,032,000	352,495	

【歳出】 (単位:円)

項目	決算額	今年度予算額	増減	備考
玉串料	100,000	100,000	0	祭典玉串料
奉賛事業費	1,147,700	1,070,000	77,700	
古伝祭奉賛事業	200,000	200,000	0	古伝祭費用補助として佐太神社へ寄贈
崇敬者大祭奉賛事業	385,000	370,000	15,000	
修繕・環境整備事業	362,700	300,000	62,700	
式年御造営奉賛事業	200,000	200,000	0	佐太神社施設整備特別会計へ繰り入れ
事務費	675,102	810,000	▲ 134,898	
会議費	43,200	50,000	▲ 6,800	役員会 総会費用
手当	20,000	40,000	▲ 20,000	監査手当・崇敬会だより執筆手当
通信費	137,982	150,000	▲ 12,018	インターネットプロバイダ料金他
印刷製本費	403,190	400,000	3,190	崇敬会だより・御座替祭案内等の作成費
消耗品費	0	30,000	▲ 30,000	
旅費・交通費	0	30,000	▲ 30,000	
広報費	68,200	100,000	▲ 31,800	公式ホームページ管理費用等
支払手数料	2,530	10,000	▲ 7,470	口座振替手数料
委託料	288,572	410,000	▲ 121,428	
システム利用料	73,920	150,000	▲ 76,080	顧客・仕入管理・販売管理システム使用料
保守料	14,652	60,000	▲ 45,348	顧客・仕入管理・販売管理システム保守料
事務委託料	200,000	200,000	0	
補助金	290,000	290,000	0	古伝神事保存協会補助 佐陀神能保存会補助 節分祭催し補助
基金	150,000	150,000	0	基金へ繰出
予備費	266,050	202,000	64,050	パソコン代金・読書等
合計	2,917,424	3,032,000	▲ 114,576	

歳入合計	歳出合計	差引残高
3,384,495	2,917,424	467,071

上記の残額は、令和6年度会計へ繰り越すものとする。

監査報告書

令和5年度佐太神社崇敬会一般会計・基金会計及び佐太神社施設整備特別会計について監査したところ金銭出納帳等関係書類は適正に処理されていることを査した報告します。

令和6年6月19日 監事 井山 定夫
監事 桑谷 充男

※個人情報観点から、署名及び印影については資料に掲載しておりません。

去る6月19日に崇敬会理事会・評議員会が開催され、令和5年度事業及び会計報告、令和6年度事業計画及び予算案が下記のとおり承認されましたのでご報告申し上げます。会員の皆様方におかれましては、今後とも当会の趣旨に御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

月日	事業・祭事名	概要
5月3日	崇敬者大祭	佐太神社の発展とともに広大無辺なる御神恩を奉謝し国家の弥栄と崇敬者各位の家運隆昌・無病息災を祈念 関連祭事/悪切祈禱の奉納/佐太神社前市の開催
6月19日	理事・評議員会(総会)	令和5年年度活動・決算報告 令和6年度予算・活動計画の承認
9月24日～25日	御座替祭・例祭	御座替祭・例祭への参列案内送付 子ども佐陀神能教室成果発表会
11月20日～25日	神在祭	御神灯奉納受付・燈明 参列案内送付
2月3日	節分祭	氏子有志による鯨汁ふるまい
通年の活動	式年御造営奉賛活動	寄付金の募集 第二期工事記念品の頒布
	古伝祭奉賛事業 修繕・環境整備事業	寄附金の募集/古伝祭継承、修繕・環境整備事に係る費用の補助 佐太神社へ寄贈
	広報事業	各祭事に案内状作成・送付 崇敬会入会・第二期工事奉賛案内送付 崇敬会だよりの発行/公式ホームページやSNS等で祭事関連の話題を掲載
	補助事業	佐太神社古傳神事保存協会、佐陀神能保存会への活動補助金を支給 節分祭の賑わい創出(催しの補助)

会員への待遇	会員加入状況
①希望者に御本殿御垣内参拝	会員数 件数(増減) 未
②各祭事参列案内送付	准会員 99件(+4) 30
③崇敬者大祭に招待	会員 122件(+7) 26
④毎年神札を授与	正会員 80件(+2) 22
⑤会員章を授与	法人会員 16件(+1) 1
	合計 317件(+14) 80

令和6年度 佐太神社崇敬会一般会計予算書

佐太神社崇敬会は平時における佐太神社を奉護して、御神徳を宣揚し、年中数度の古伝の催事を振興して、神社の隆昌を願い、御本殿三字をはじめとした国・県指定の文化財・美術品等の社宝を末永く後世に伝えると共にこれを活用して文化の創造・発展に役立て、廣大無辺なる御神徳のもと、広く人々の平安と繁栄を願い設立されました。この趣旨にご賛同いただき多くの方々にご入会、ご支援を賜り、更なる奉賛事業の発展に取り組んでまいりたいと存じます。

【令和6年度 佐太神社崇敬会一般会計予算書】

自：令和6年4月1日～至：令和7年3月31日
(単位：円)

【歳入】				
項目	今年度予算額	前年度予算額	増減	備考
繰越金	467,071	431,489	35,582	
会費	2,000,000	1,900,000	100,000	
寄付金	600,000	700,000	▲ 100,000	寄付・広告協賛金等
繰入金	500,000	0	500,000	
雑収入	929	511	418	貯金利息等
合計	3,568,000	3,032,000	536,000	

【歳出】				
項目	今年度予算額	前年度予算額	増減	備考
玉串料	100,000	100,000	0	祭典玉串料
奉賛事業費	1,570,000	1,070,000	500,000	
古伝祭奉賛事業	200,000	200,000	0	古伝祭費用として佐太神社へ寄贈
崇敬者大祭奉賛事業	370,000	370,000	0	
修繕・環境整備事業	800,000	300,000	500,000	パソコン新調・顧客・仕入・販売管理ソフトバージョンアップ費用 環境整備費30万円佐太神社へ寄付
式年御遠宮奉賛事業	200,000	200,000	0	佐太神社施設整備特別会計へ繰り入れ
事務費	820,000	810,000	10,000	
会議費	50,000	50,000	0	役員会 総会費用
手当	50,000	40,000	10,000	監査・祭事写真撮影・崇敬会だより原稿執筆の手当
通信費	150,000	150,000	0	郵送料、インターネットプロバイダ料金
印刷製本費	400,000	400,000	0	崇敬会だより会員入会及寄付案内等の作成費
消耗品費	30,000	30,000	0	
旅費・交通費	30,000	30,000	0	公式ホームページ管理費用等
広報費	100,000	100,000	0	口座振替手数料等
支払手数料	10,000	10,000	0	
委託料	410,000	410,000	0	
システム利用料	150,000	150,000	0	顧客・仕入・販売管理システム使用料
保守料	60,000	60,000	0	顧客・仕入・販売管理システム保守料
事務委託料	200,000	200,000	0	
補助金	290,000	290,000	0	古伝神事保存協会補助 佐陀神能保存会補助・部分祭権し補助
基金	150,000	150,000	0	基金へ繰出
予備費	228,000	202,000	26,000	
合計	3,568,000	3,032,000	536,000	

(単位：円)		
歳入合計	歳出合計	差引残高
3,568,000	3,568,000	0

祭事だより

写真撮影 阿礼

年間を通して佐太神社では様々な古伝の祭が執り行われます。その一部をご紹介します。

令和五年九月二十五日 御座替祭 例祭





令和六年五月二十日～二十五日 神在裏月祭



令和六年六月三十日 水無月大祓



令和五年九月二十五日 御座替祭 御法樂



令和六年七月十五日 御田植祭



「佐陀神能民俗文化財調査委員会」により令和元年度から令和二年度の二か年にわたり行われた調査結果を基に専門家の指導を頂き、佐陀神能保存会が使用する面・装束・その他諸道具について週留・新調事業を令和三年度より令和六年度にかけて実施しています。

令和五度・及び令和六年度文化庁補助事業で行われた内容は以下の通りです。今回は主に神能「磐戸」などに使用する面を新調しました。



文化庁・有識者による指要（令和6年8月9日）

①『磐戸』細女命面

この面は佐陀神能保存会が所有している女面で、表面は「あぶらとき」という技法で光沢を出しています。経年劣化の為この度新調しました。



【復元新調】細女命面



【参考】細女命面（佐陀神能保存会蔵）

②『磐戸』手力男命面(1)

同じく佐陀神能保存会が所有している面。昭和五十年代頃に合成樹脂塗料で修復した為劣化が激しい状態でした。今回新調し胡粉で塗装仕上げを行いました。



【復元新調】手力男命面(1) 阿



【参考】手力男命面（佐陀神能保存会蔵）

③『磐戸』手力男命面(2)

②と同じような形状ですが、②は口を開じた「くいしめ」③は口を開けた形状で阿吽になっています。この面は頭頂部に紐を通す穴が開いているので木冠に結びつけるための物と考えられます。よって過去には神能「武甕槌」のシテ面にも使用されていた可能性が考えられます。



【復元新調】手力男命面(2) 咩



【参考】手力男命面（佐陀神能保存会蔵）

④『磐戸』玉鉾命面

松江市島根町鎮座の日御碕神社の社家であった朝倉家の面で現在は野波自治会が所有し松江市鹿島歴史民俗資料館に寄託されている面を元に復元新調を行いました。口の形が特徴的で神能の面ではあまり見かけない形状であり、演目「磐戸」でしか登場しないことから「磐戸」が日御碕神社の御祭神・天照大神ゆかりの演目だったのでこの面が作られたのかもしれない。



【復元新調】玉鉾命面



【参考】玉鉾命面（野波自治会所有 / 鹿島歴史民俗資料館寄託）

⑤『磐戸』天照大神面

当社の神楽司で注連祝であった幡垣家に伝わる女面を元に復元新調を行いました。



【復元新調】天照大神面



【参考】天照大神面（幡垣家所有 / 鹿島歴史民俗資料館寄託）

⑥『磐戸』素盞鳴尊面

⑤と同じく幡垣家に伝わる素盞鳴尊面を元に復元新調を行いました。



【復元新調】素盞鳴尊面



【参考】素盞鳴尊面（幡垣家所有 / 鹿島歴史民俗資料館寄託）



平成30年9月24日25日 / 御座替祭 佐陀神能「磐戸」：天照大神の磐戸隠れを題材とし、登場する神々が大きく大がかりな演目



作製 株式会社 井筒装束店 様 井筒大根屋織工房 様

神能『磐戸』『八重垣』『日本武』

文化庁補助事業の他に令和五年度には松江市補助事業として神能『磐戸』『八重垣』『日本武』に使用する装束や諸道具の新調を行いました。装束は役柄にあわせて色や柄を決め、京都の井筒装束店様・井筒大根屋織工房様に作製して頂きました。西陣の地で培われた伝統の技法で織りあげられた生地を使い縫製していただきました。

三年間にわたり佐陀神能の諸道具を整備してまいりましたが、シテ（仇）役を使用する隈取面については江戸時代後期から幕末にかけて人形浄瑠璃などの影響を受けて神能面に用いられるようになったのではないかと考えられ、復元新調については専門家の意見を伺いながら進めて参ります。



神能「山神」悪切折袴を舞う大山貳命



神能「日本武」駿河國にて日本武命を待ち受ける東夷（シテ）



(第一回神座) 早池峰神楽「天孫降臨」



(第三回神座) 高千穂の夜神楽伝承協議会「御神舂の舞」



子ども佐陀神能教室 佐陀神能保存会のメンバーと子ども達との練習風景



神楽ユネスコ登録弾み

高根 佐陀神能 保存会 知事表敬

国連教育科学文化機関（ユネスコ）が、ユネスコ無形文化遺産として登録されている神楽の振の石橋舞（さんびし）と神楽（佐陀神能）保存会（個人・団体）をユネスコ無形文化遺産に追加することを決定し、ユネスコ本部に申請書を提出しました。

ユネスコ本部は、ユネスコ本部に申請されたユネスコ無形文化遺産として登録されている神楽の振の石橋舞（さんびし）と神楽（佐陀神能）保存会（個人・団体）をユネスコ無形文化遺産に追加することを決定し、ユネスコ本部に申請書を提出しました。

ユネスコ本部は、ユネスコ本部に申請されたユネスコ無形文化遺産として登録されている神楽の振の石橋舞（さんびし）と神楽（佐陀神能）保存会（個人・団体）をユネスコ無形文化遺産に追加することを決定し、ユネスコ本部に申請書を提出しました。

2024年7月29日 佐陀神能保存会会長 宮崎県 河野知事を表敬訪問した
(宮崎日々新聞 2024年7月30日記事)

また、令和元年度より子ども佐陀神能教室などを通じて神能を継承してもらえるような人材を育てる取り組みを行っていますがなかなか定着しないという課題もあります。全国的に伝統的な民俗芸能が、過疎化や少子化が進み維持継承が困難になって行くことが予想されますが、この度当保存会も「全国神楽継承・振興協議会」に加入し全国の神楽団体と協力して様々な課題を克服し多くの人にその魅力を伝え伝統を守って行きたいと思っています。

みやざき ニューズBOX



ユネスコ本部は、ユネスコ本部に申請されたユネスコ無形文化遺産として登録されている神楽の振の石橋舞（さんびし）と神楽（佐陀神能）保存会（個人・団体）をユネスコ無形文化遺産に追加することを決定し、ユネスコ本部に申請書を提出しました。

2024年7月29日 佐陀神能保存会会長 宮崎県 河野知事を表敬訪問した
(宮崎日々新聞 2024年7月30日記事)



(第二回神座) 佐陀神能「八重垣」

奉賛事業実施に伴うご寄付のお願い

佐太神社崇敬会では神社の発展と隆昌を願い下記の事業に取り組んでまいります。皆様方の御懇情を賜り、ご神徳に報いることができますよう宜しくお願いします。なお、ご協賛いただいた方には崇敬会だよりに御芳名を記し顕彰いたします。

1. 事業内容：ご寄付なさる事業内容を下記の4項目よりお選びいただけます。

- 1 ① 佐太神社式年御造営奉賛事業
(四十年式年の本殿三宇の御造営 他摂末社他諸施設の修復・整備)
- 2 ② 鎮守の森保全事業
(母儀人基社から弥山、弥山社の修復、参道整備・神ノ目山参道及び斎場の整備)
- 3 ③ 佐陀神能ユネスコ無形文化遺産登録記念事業
(諸道具の修復・新調・継承に係る補助等)
- 4 ④ 古伝神事奉賛事業
(直会祭・御田植祭・神在祭等 佐太神社に伝わる古伝祭祀の継承に係る補助)

⑤ その他 (用途の指定なし)

2. 協賛金額 一口 5,000円より承ります
3. 待遇 佐太神社崇敬会だより「神在の社」冊子(毎年9月頃発行)
佐太神社公式ホームページ上で御芳名・広告を掲載し顕彰させていただきます
(一口あたり 枠サイズ 約 W100mm×H25mm)
崇敬会だより A4 冊子 年1回発行/発行部数 10,000部
崇敬者・参拝者に無料配布(佐太神社 公式ホームページでも閲覧可能です)
※寄付される場合、「匿名希望」と金額非掲載を選択することができます

4. 募集期間 毎年7月末(その年の崇敬会だよりへ掲載)

5. 納入方法 下記事務局へご持参いただくか
銀行振り込みをお願いします

ゆうちょ銀行 一三九店 当座 0053003
口座名義 サダジンジャスウケイカイ

※恐れ入りますが振込手数料はご負担願います



▲ 佐太神社 崇敬会だより「神在の社」冊子

6. お問い合わせ先 鳥根県松江市鹿島町佐陀宮内 73
佐太神社内 佐太神社崇敬会事務局 石橋
TEL/FAX (0852)82-0668 E-mail : info@sadajinja.jp
※掲載される広告内容・データ等がありましたらをメールにてお送りください



佐太神社社務所増築その他工事

施工：株式会社 佐藤組
工期：令和5年5月31日～11月26日



佐太神社社務所増築その他工事
社務所西側に、御座替祭など重要な祭事で参籠する宮司潔斎室を設けました。宮司潔斎室は御座替祭に五日間、外部との接触を断ち、忌籠を行う場所です。昭和五十五年の御造営工事でも計画されていましたが、この度念願の設備が整いました。併せて、書庫及び装束諸道具の収納室を併設し、社務所玄関改修、庭の砂利敷き、外構工事を行いました。



外構工事



社務所玄関改修/庭の砂利敷き

出口 幸宏	小原 由美子
深山 由美子	大村 太郎
毛利 信二	石橋 みづ枝
渡邊 和子	上西 律子
曾田 稔	堀 克夫
藤 吉郎	田宮 暁
吉岡 修	松井 康弘
北國 英一	秋山 結花里
三浦 美和子	吉田 隆造



【期間】十一月二十一日～二十五日
龍蛇神 特別拜観 於佐太神社舞殿

一般 お一人様 千円也
当日祈願を受けられた方 無料
佐太神社崇敬会会員 無料
(当日入会された方も含みます)
神札(龍蛇神火難水難防除)を授与いたします

勝軍木庵光英 (ぬるであんみつひで)【1802～1871年】
三宝は勝軍木庵光英作。松江藩松平家9代藩主松平
育興(まつだいらなりたけ)に雇用された蒔絵師。
豪華な高蒔絵を得意とし、菓、香合、印籠、硯箱、文台
など多くの作品を残しており、出雲の名工として名高い。



令和六年十一月二十日～二十五日

神在祭 じんあいのまつり

神迎え神事 十一月二十日 午後八時～九時半頃迄
神等去出神事 十一月二十五日 午後八時～十一時頃迄
止神送神事 十一月三十日

【11月25日午後8時より】
神等去出神事参列用

御神灯(御幣・神盃付き) 初穂料三千元

神等去出神事は氏子・崇敬者の皆様にご参列いただき、境内での神事後、当社西北二キロほど離れた神ノ目山の斎場にて厳肅に八百万の神々をお送りいたします。ご参列の方は当日授与所にて御神灯をご用意しております。



編集後記

秋になると近郷の各所で荒神祭りが行われますが、最近では高齢化・過疎化などで簡略化あるいは取りやめになったという話を耳にするようになりまし。荒神祭りは多くのところで龍蛇を作り御神木に巻き付け祭儀を行うのですが、龍が無いから止めるところもあるとの事、なぜ龍蛇を作るのかはつきりしたことはわかりませんが、秋に桶魂を天に返し春にまた桶魂をもたらすとも言われているようです。昨今のコメ不足も様々な要因があるかと思いますが古代からの信仰が薄らいでいることもあるのかもしれない。そのような事から荒神祭を改めて考えてみようと思いい今回は中村元記念館東洋思想文化研究所研究員の中野秋鹿先生に「龍蛇と荒神祭」を御寄稿いただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

さて、松江にゆかりのラフカディオ・ハーン(小泉八雲)の妻、小泉セツをモデルにしたNHK朝の連続テレビ小説「はげばけ」が来年度後期に放映されることが決定しました。

ハーンは一八九〇年(明治二十三年)十二月二日に松江中学の教頭であり最も信頼する友人であった西田千太郎と共に佐太神社の神在祭に詣で「龍蛇神」を拝観しています。西田千太郎の日記に「本日より佐陀の神在祭にて、午後二時限、学校に授業時なかりしにより、ヘルン氏と同伴、参詣す。人力車にて浜佐陀に至り、小舟を雇い四時前着。龍蛇の対価おおよそ五円なり」とあり、また翌一八九一年(明治二十四年)九月五日には妻セツと共に佐太大神が御生まれになった加賀の潜戸へ赴いています。その著書「知られぬ日本の面影」の中に「子供たちの死霊の岩屋で―加賀の潜戸」として記しています。当社にまつわる話がドラマの中に出てくればと今から楽しみにしています。(J)



加瀬 誠

渡邊 喜代美

武山 良広

大森 正裕

仲野 鐵雄

西山 智重子

佐太神社崇敬会だより

かみありのやしろ
神在の社

佐太神社崇敬会の奉賛事業に

ご協賛頂き誠にありがとうございました

令和5年4月～令和6年7月 納入分 (順不同・敬称略)

井上 恵資

串間 保

岡林 三千世

 **和幸電通株式会社**

本 社 松江市古志原2丁目22-14 TEL(0852) 24-6670 (代)
松江支店 松江市古志原2丁目22-14 TEL(0852) 24-6666 (代)

原田 豊美

株式会社 樞

由香利陶房

松本 浩幸

長谷 春美

大西 志津子

楠 佳巳

廣瀬 精雄

神崎 福夫

安達 健一

比嘉 美央

竹下 幹夫

石川 真澄

大谷 昌男

朝山 真理子

中村 博文

高木 美和子

株式会社 健身倶楽部RAKU

加藤 真義

鹿児島縣 新屋 信江

小谷 真理恵

和田 尚子

帆足 アツヨ

川上 家嗣

大北 悦子

中島 利勝

給排水衛生設備工事

株式会社 **大湖設備**

代表取締役 武田 仲雄

松江市浜乃木5丁目10番3号

TEL (0852) 25-5074(代)

アルガニャーナ

浜嶋 綾



Office Communication

株式会社 **コニシ**

株式会社 クリエイティブアイ

本社 〒693-0021 島根県出雲市塩冶町 1225-39

TEL:0853-22-6578 FAX:0853-23-2856

<http://cs-konishi.co.jp/>

佐太神社崇敬会だより

かみありのわしら
神在の社

佐太神社崇敬会の奉賛事業に

ご協賛頂き誠にありがとうございました

令和5年4月～令和6年7月 納入分 (順不同・敬称略)

 **島根電工**

美しい伝統・文化を
未来へつなぐ

**EMOTION
SMILE
HUMAN
FUTURE**

カナツ技建工業株式会社

〒690-8550 島根県松江市春日町 636 番地 TEL.0852-25-5555 FAX.0852-27-1207
HP <http://www.kanatsu.co.jp/>

モバイルサイトはこちら

